

# 「まちもり」アクションNEWS #10



## 2019~2021年度 第1期取り組みの報告

### 「まちもり」アクション：概要と目的

「まちもり」ポットをツールとして、旭化成グループ全体の事業所緑地と全従業員を対象に、生物多様性保全の視点で価値の向上を図るとともに、従業員の生物多様性保全に対する理解と認識を高める取り組みです。

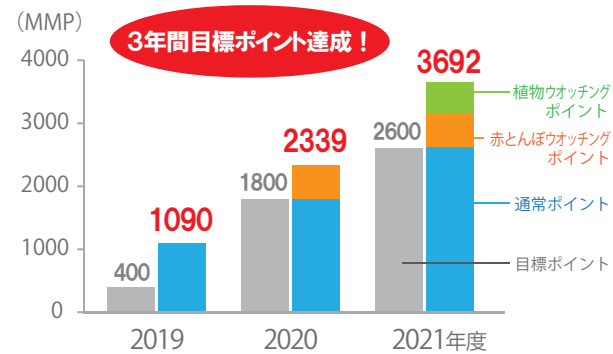


### 「まちもり」ポット

旭化成ホームズ(株)が開発した新しい外構アイテムです。都市の住宅地に設置できるコンパクトさをもちながら、緑の少ない人工的な環境でも生きものたちの利用空間を増やすことができます。

### 評価方法と目標設定：MMP

右下記の4つのステージのアクションに対して「まちもり」ポイント(MMP)を付与し、各事業所の取り組み内容と進捗を可視化。全事業所・全ステージの合計MMPについて年度ごとに目標値を設定し、取り組みを管理・推進しています。



累計「まちもり」ポイント(MMP)の推移

2021年度のMMPは2022年1月末時点

### アクションの内容：4つのステージ

- Stage① 「まちもり」ポットを設置・管理
- Stage② 植えた植物や訪れた動物を観察・投稿
- Stage③ 取り組みの様子を従業員へ発信
- Stage④ イベントコラボ、場所の拡大による発展

### 「まちもり」アクションの歩み

### Stage④ 環境保全の取り組みへの発展

Stage①~③の枠組みを超えた発展的な取り組みとして、SDGsの取り組みとのコラボ、新入社員研修や生きもの観察会での「まちもり」ポットの活用などが行われました。さらに工場増設に伴う緑化で「まちもり」ポットを採用した事業所もあります。2020年度以降はコロナ禍でイベントが自粛される中、各事業所では様々な工夫が見られました。



### 2020年度

- 2事業所で「まちもり」ポット設置
- 41 全事業所に「まちもり」ポット設置完了
- 「赤とんぼウォッチング」企画実施 (96投稿で22種類のトンボ記録)

### 2019年度

- 24事業所で「まちもり」ポット設置
- 「まちもり」アクション交流勉強会開催
- 「まちもり」アクション意識調査実施
- 「まちもり」アクションNEWS創刊
- イントラネットで投稿結果掲載



## 第2期へ! (2022~2024年度)

小さな「まちもり」ポットからはじまった「まちもり」アクション。第1期の取り組みから、多くの

可能性と課題を見つけることが出来ました。次期取り組みでは、より多くの方が参加できるように、さらなる発展を目指します!

### 2021年度

- 「植物ウォッチング」企画実施 (161投稿で119種類の植物記録)
- 優れた取り組みの5つの事業所表彰



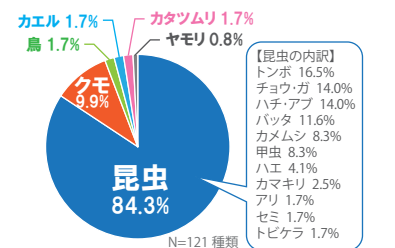
### Stage③

#### 各事業所で情報発信

取り組みの様子は、グループ共有のイントラネットへの掲載やニュースレターの配信、各事業所でポスターや看板の設置により、従業員に広くPRしています。

### Stage② 合計667投稿で121種類の動物を観察

3年間の取り組みでは、全事業所から合計667回の投稿がありました。そのうち「まちもり」ポットを訪れた動物として昆虫やクモ、鳥、カエルなど121種類が観察されました。植えた植物の観察では、95%の苗木が順調に生育し、平均21.6cm/年の生長を計測しています。<sup>\*2</sup>

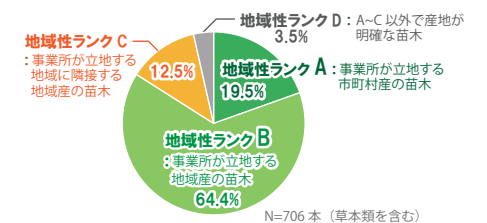


記録した動物の種類の内訳

<sup>\*2</sup>: 草本類を除く173本の苗木の高さを計測した結果。最も生長したのは1年で116cm伸びたスタジイ。

### Stage① 全事業所で83種類706本の在来植物を植栽

2020年度までに全国41事業所で合計51セットの「まちもり」ポットを設置。各事業所が立地する地域の植生分布を参考に選定した在来植物83種類706本の苗木を植栽しました。そのうち84%は、事業所が立地する地域を産地とする苗木(地域性ランク<sup>\*1</sup>AとB)を用いており、地域遺伝子の保全にも配慮しています。



植栽した苗木の地域産の割合

<sup>\*1</sup>: 日本の気候・風土、各地域の植生分布状況を考慮して区分した16の地域区分に基づき、どれだけ地域遺伝子に配慮しているかを示すA~Dまでのランク。Aが最も配慮していることになり、「まちもり」アクションでは可能な限りB以上を目指しています。